



エネルギーを新しい時代へ

2022年度第3四半期連結決算について

(注) 資料内の「年度」表記は4月から翌年3月までの期間を指します。
「3Q」表記は4月から12月までの期間を指します。

2023年1月30日
株式会社JERA

連結損益計算書

(億円)

	2022/3Q(A)	2021/3Q(B)	増減(A-B)	増減率(%)
営業収益 (売上高)	60,789	28,537	32,251	113.0
営業損益	▲459	793	▲1,253	—
経常損益	▲972	557	▲1,529	—
親会社株主に帰属する 四半期純損益	▲1,002	184	▲1,187	—
(参考) 期ずれ除き四半期純利益	2,984	2,283	701	30.7

連結貸借対照表

(億円)

	2022/3Q(A)	2021年度末(B)	増減(A-B)	増減率(%)
資産	102,185	87,221	14,963	17.2
負債	81,091	67,478	13,612	20.2
純資産	21,094	19,743	1,350	6.8
有利子負債残高	37,224	26,465	10,758	40.7
Net DER	1.63	1.18	0.45	

決算のポイント

【売上高】

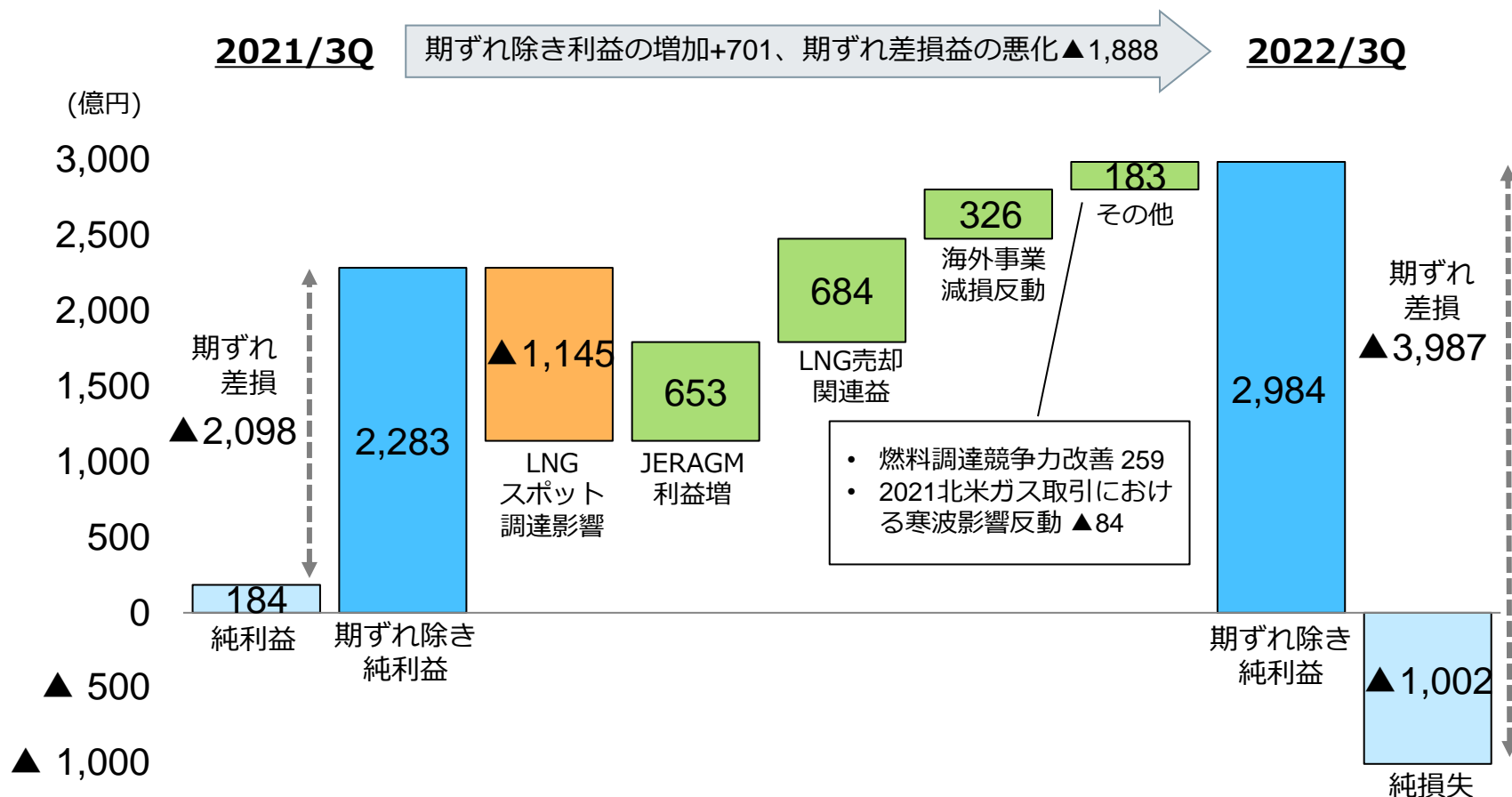
- 販売電力量の増加に加え、JERA Global Markets（以下、JERAGM）の売上増などにより、**前年同期比3兆2,251億円増（113.0%増）の6兆789億円**

【純損益】

- 純損益は、**前年同期184億円から1,187億円減益の▲1,002億円（純損失）**
 - ・ 期ずれ差損が大幅に拡大（▲1,888億円、▲2,098億円→▲3,987億円）
 - ・ 期ずれ除き利益は増益（+701億円、2,283億円→2,984億円）
- 期ずれ除き純利益は、LNGスポット価格が高値で推移したことによる影響（▲1,145億円）等があったものの、JERAGMの最適化機能の活用等により増加

連結純損益の変動要因

- 純損益は、資源価格高騰により期ずれ差損が大幅拡大したことから純損失へ
- 期ずれ除き利益は、LNGスポット価格が高値で推移したことによる影響等があったものの、JERAGMの最適化機能の活用等により増加



※金額は税引後

連結損益計算書

(億円)

	2022/3Q(A)	2021/3Q(B)	増減(A-B)	主な増減要因
営業収益 (売上高)	60,789	28,537	32,251	<ul style="list-style-type: none"> 販売電力量の増加 JERAGM売上増加
営業費用	61,248	27,743	33,504	<ul style="list-style-type: none"> 燃料費の増加 JERAGM費用増加
営業損益	▲459	793	▲1,253	
営業外収益	342	79	262	
営業外費用	855	316	539	<ul style="list-style-type: none"> 為替差損 +533 支払利息の増加 +153
経常損益	▲972	557	▲1,529	<ul style="list-style-type: none"> 期ずれ差損益 ▲2,623(▲2,914→▲5,538) 期ずれ除き利益の増加 +1,093(3,471→4,565)
特別利益	-	235	▲235	
特別損失	-	228	▲228	
法人税等	▲519	▲87	▲431	
非支配株主利益	549	467	82	
親会社株主に帰属する 四半期純損益	▲1,002	184	▲1,187	

	2022/3Q(A)	2021/3Q(B)	増減(A-B)
販売電力量 (億kWh)	1,914	1,832	82
原油価格(JCC) (\$/b)	107.9	74.0	33.9
為替レート (円/\$)	136.5	111.1	25.4

※2022/3Qの原油価格は速報値

連結貸借対照表

(億円)

	2022/3Q(A)	2021年度末(B)	増減(A-B)	主な増減要因
現金及び預金	6,028	5,143	885	
有形固定資産	24,022	21,738	2,283	・国内火力リプレースの進捗等
投資有価証券	12,733	10,265	2,468	
その他	59,400	50,074	9,325	・売掛金の増加等
資産合計	102,185	87,221	14,963	
有利子負債	37,224	26,465	10,758	・借入金 +9,125 (子会社 +3,220) ・CP ▲1,260 ・社債 +2,894
その他	43,866	41,012	2,854	・買掛金の増加等
負債合計	81,091	67,478	13,612	
株主資本	15,047	16,881	▲1,833	・株主への配当 ▲831 ・四半期純損益 ▲1,002
その他	6,046	2,862	3,184	・為替換算調整勘定 +2,341
純資産合計	21,094	19,743	1,350	

経営目標（財務健全性）の状況

- Net DERは有利子負債の増加に伴い悪化が続いていたが、直近ではわずかに良化
- 2025年度Net DER1.0倍以下の経営目標達成に向け、引き続き財務規律の遵守に努める

	'22/3月	'22/9月	'22/12月
Net DER	1.18倍 期ずれ差損拡大に伴う有利子負債増加	1.66倍 現預金増加によるNet有利子負債の減少	1.63倍 1.34倍 一時的な要因（当期期ずれ差損による有利子負債の増加）を除く
自己資本比率	20.7% 資源価格高騰に伴うJERAGMのデリバティブ債権の増加	15.0% JERAGMのデリバティブ債権の減少	18.7% 25% JERAGMのデリバティブ債権を資源価格高騰前（21/3月末）水準と仮定

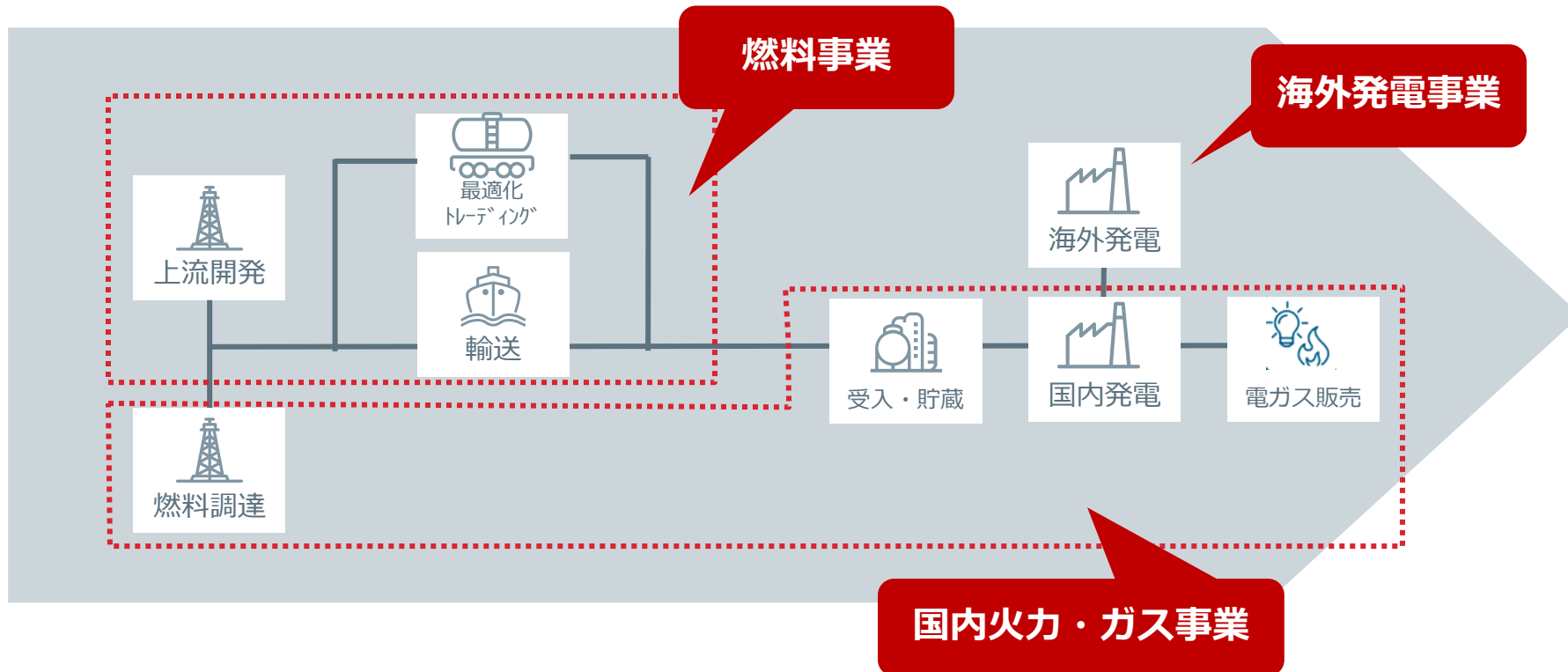
(億円)

	2022/3Q(A)		2021/3Q(B)		増減(A-B)		主な純損益(期ずれ除き) 増減要因
	売上高	純損益 (期ずれ除き)	売上高	純損益 (期ずれ除き)	売上高	純損益 (期ずれ除き)	
燃料事業※	44,614	1,617	19,802	1,176	24,811	440	<ul style="list-style-type: none"> •JERAGM利益増 +653 •2021北米ガス取引における寒波影響反動 ▲84
海外発電事業	33	▲56	24	▲109	9	53	<ul style="list-style-type: none"> •2021フォルモサ2減損損失反動 +326 •海外案件売却反動 ▲140 •海外火力IPP減益 ▲68
国内火力・ガス事業	44,193	▲1,611 (2,375)	20,318	▲599 (1,499)	23,875	▲1,012 (876)	<ul style="list-style-type: none"> •LNGスポット調達影響 ▲1,145 •LNG売却関連益 +684 •燃料調達競争力改善 +259 •期首在庫単価影響 +144 •2021特別損失反動 +164
調整額	▲28,051	▲951	▲11,607	▲282	▲16,444	▲668	
連結財務諸表計上額	60,789	▲1,002 (2,984)	28,537	184 (2,283)	32,251	▲1,187 (701)	

※燃料上流・輸送・燃料トレーディング

(参考) バリューチェーンとセグメント区分

- 燃料上流（ガス田の開発）から、燃料輸送、燃料貯蔵（燃料基地の運営）、発電、卸売まで、燃料・火力のサプライチェーン全体を保有。
- セグメントとして、燃料上流事業等への投資、燃料輸送・燃料トレーディング事業を行う「燃料事業」、海外の発電事業等への投資を行う「海外発電事業」、国内における電力・ガスの販売などを行う「国内火力・ガス事業」に区分している。



2022年度業績見通し

- 資源価格は例年比で高い水準であるものの、価格面等でLNG調達環境が2022/2Q時点よりも改善していることから、純利益は前回公表の業績見通しから+3,000億円の1,000億円、期ずれ除き利益は+2,000億円の3,000億円と想定。

(億円)

	今回予想(A)	前回 (2022/2Q) 予想(B)	増減(A-B)	増減率(%)
純損益	1,000	▲2,000	3,000程度	-
(内訳)期ずれ差損益	▲2,000	▲3,000	1,000程度	-
期ずれ除き利益	3,000	1,000	2,000程度	200.0

【参考：前年度実績との比較】

(億円)

	今回予想(A)	前年度実績(B)	増減(A-B)	増減率(%)
純損益	1,000	246	754程度	306.5
(内訳)期ずれ差損益	▲2,000	▲2,524	524程度	-
期ずれ除き利益	3,000	2,770	230程度	8.3

※2022年度の業績見通しは国際財務報告基準（IFRS）適用を反映

【主要諸元】

	今回予想	(うち1~3月)	前回 (2022/2Q) 予想	【参考】2021年度実績
原油価格(JCC) (\$/b)	102程度	82程度	101程度	77.1
為替レート (円/\$)	136程度	135程度	139程度	112.4

国際財務報告基準（IFRS）の任意適用について

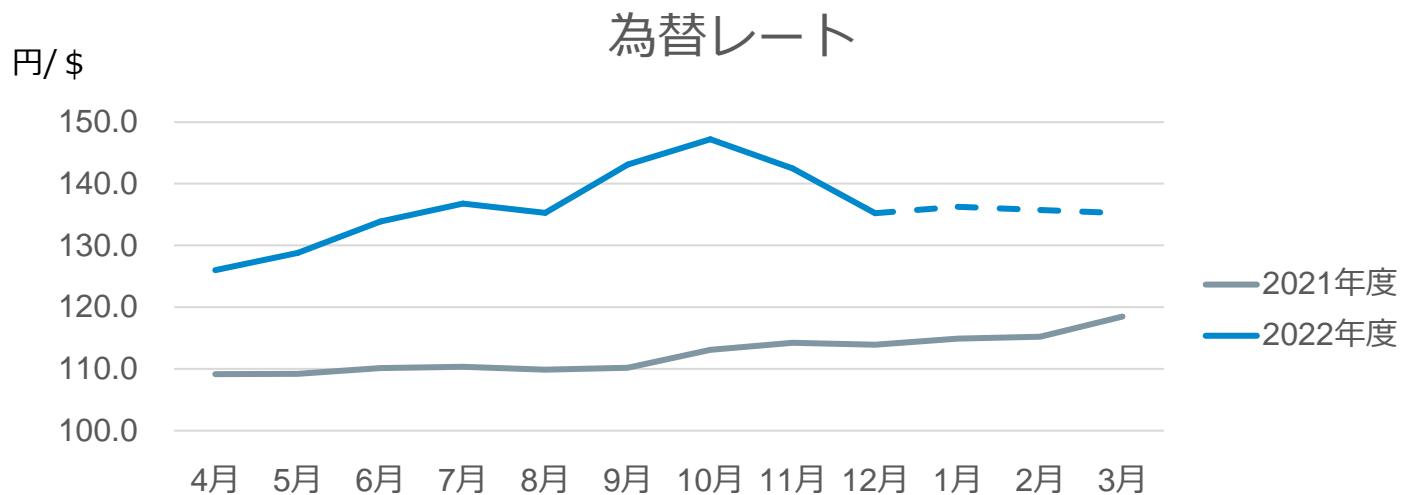
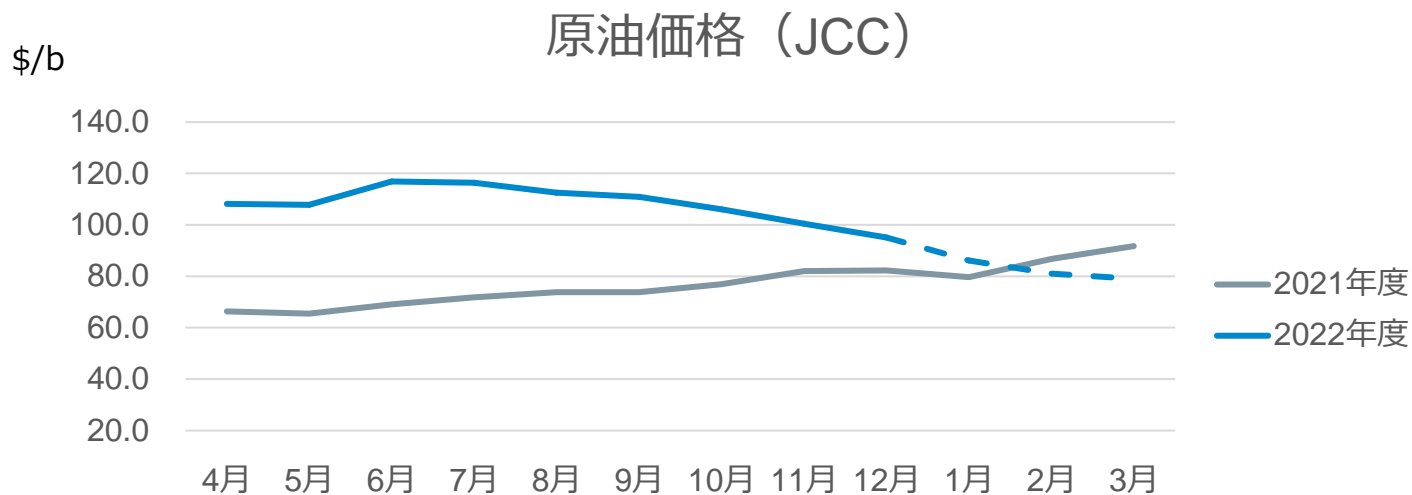
- 当社は、資本市場における財務情報の国際的な比較可能性の向上と投資家の皆様をはじめとするステークホルダーとのコミュニケーションの向上を目的として、2022年度決算の連結財務諸表から、従来の日本基準に替えて国際財務報告基準（以下、IFRS）を任意適用することを予定している。
- IFRSによる開示は、2022年度（2023年3月期）期末決算からを予定しており、IFRSの任意適用に伴う開示スケジュールは以下のとおり。

IFRS任意適用に伴う開示スケジュール（予定）

決算期		開示資料	適用会計基準
2022年度	第3四半期	四半期報告書、決算説明資料	日本基準
	期末	有価証券報告書、連結計算書類、決算説明資料	IFRS
2023年度	第1～第3四半期	四半期報告書、決算説明資料	IFRS
	期末	有価証券報告書、連結計算書類、決算説明資料	

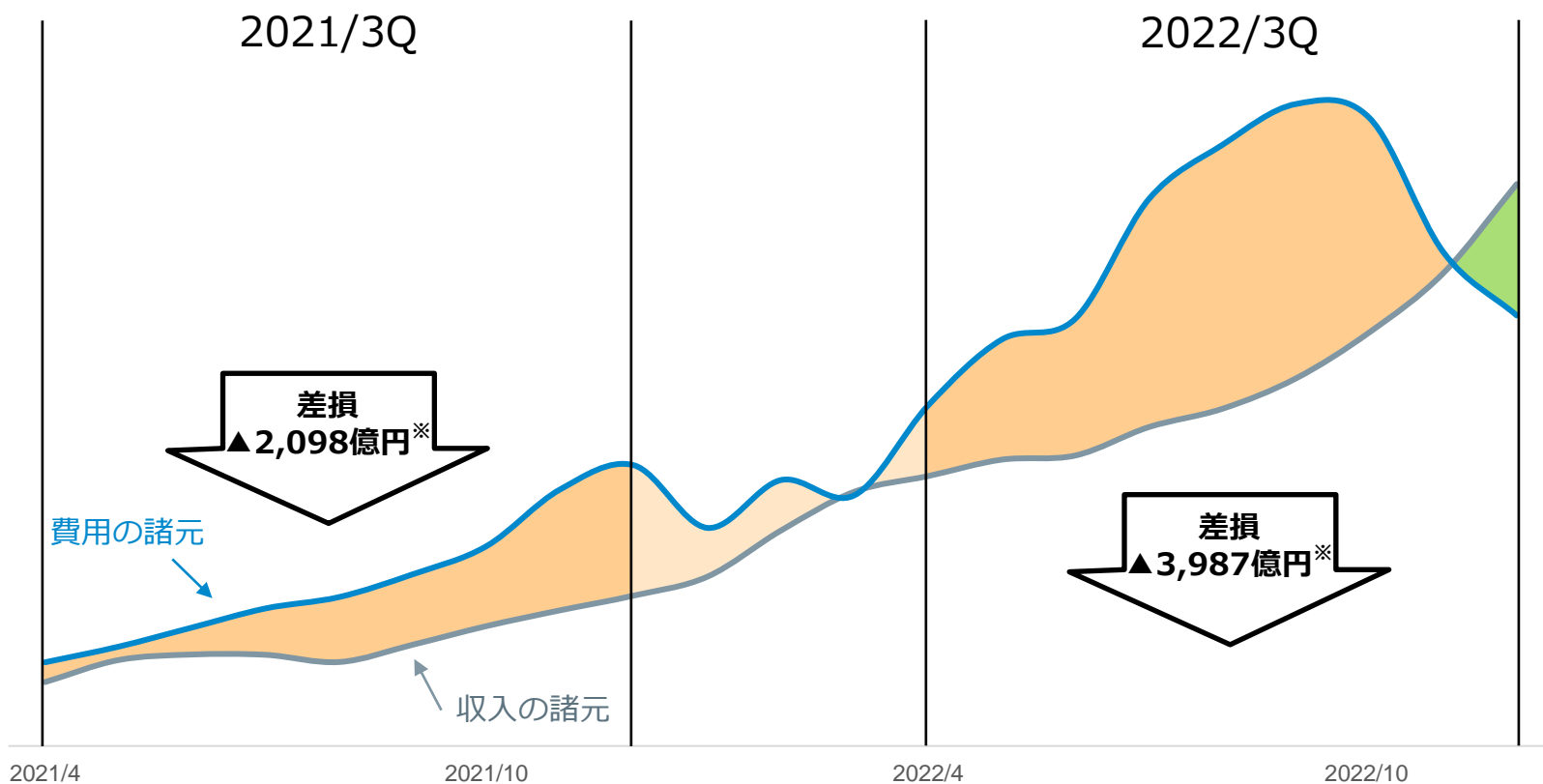
参考情報

原油価格・為替レート推移



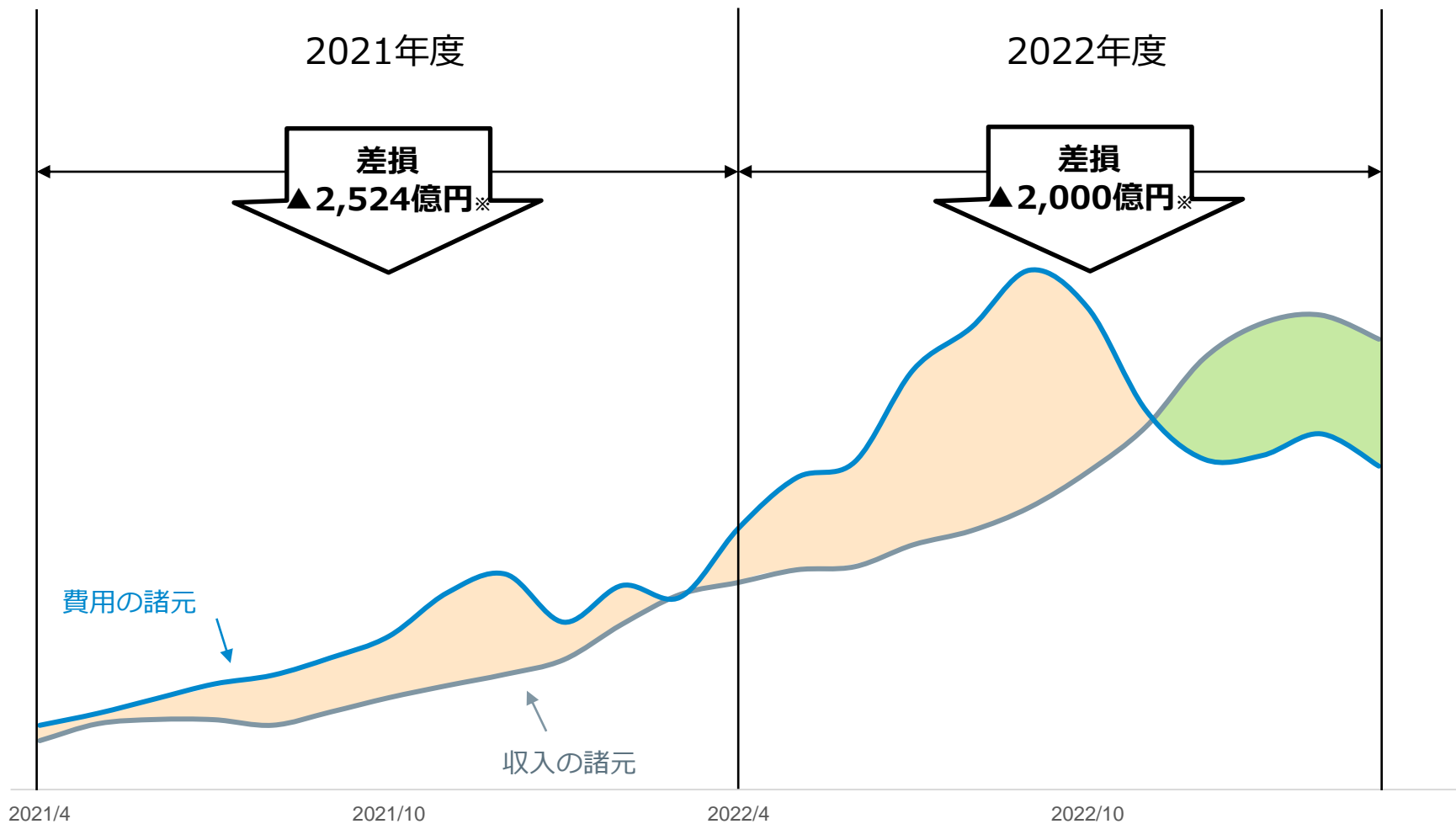
期ずれ影響のイメージ (2021/3Q – 2022/3Q)

- 燃料価格変動の影響を販売価格に反映する燃料費調整の仕組みにおいて、燃料価格の変動を販売価格に反映するまでの「タイムラグ」があるため、期間で区切った際には収支影響が生じる。
- 中長期的には収支影響はニュートラルとなる。



※金額は税引後

期ずれ影響のイメージ (通期見通し)



※金額は税引後

販売電力量・発電電力量の推移

【販売電力量（億kWh）】

	4～6月	7～9月	10月～12月	1～3月	合計
2022年度	579	699	636		1,914
2021年度	537	646	649	723	2,555

【発電電力量（億kWh）】

	4～6月	7～9月	10月～12月	1～3月	合計
2022年度	528	635	580		1,743
LNG	417 (79%)	470 (74%)	439 (76%)		1,326 (76%)
石炭	112 (21%)	165 (26%)	140 (24%)		417 (24%)
重油・原油	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)		0 (0%)
2021年度	534	617	623	699	2,473
LNG	412 (77%)	468 (76%)	484 (78%)	558 (80%)	1,923 (78%)
石炭	122 (23%)	149 (24%)	138 (22%)	141 (20%)	550 (22%)
重油・原油	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)

格付取得状況

【発行体格付けの推移】

